日本職業リハビリテーション学会
第 35 回大会プログラム

テーマ　障がい者雇用・就労の明日を拓く

大会長　上野　武治（北海道大学名誉教授・北星学園大学教授）

会　期　2007年7月26日(木)・27日(金)

会　場　北海道大学　クラーク会館（札幌市北区北8条西8丁目）

学術交流会館（　同　西5丁目）

主催　日本職業リハビリテーション学会

協賛　北海道作業療法士会　北海道精神科診療所協会　北海道精神科病院協会

後援　独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構　日本障害者リハビリテーション協会
全国重度障害者雇用事業所協会　全国社会福祉協議会　全国社会就労センター協議会
日本作業療法士協会　日本社会福祉士会　日本精神保健福祉士協会　きょうされん
日本脳外傷友の会　日本知的障害者福祉協会　全国精神障害者社会復帰施設協会
DPI 北海道ブロック会議　北海道精神障害者回復者クラブ連合会　北海道手をつなぐ育成会
札幌市精神障害者家族連合会　北海道精神障害者家族連合会　きょうされん北海道支部
札幌市小規模作業所連絡協議会　北海道精神障害地域共同作業所連絡会
北海道知的障がい福祉協会　北海道知的障害者職親連合会　SST 普及協会北海道支部
北海道高齢・障害者雇用促進協会　北海道理学療法士会
日本産業カウンセラー協会北海道部会　北海道医療ソーシャルワーカー協会
北海道精神保健福祉士協会　北海道社会福祉士会
北海道経営者協会　北海道商工会連合会　北海道商工会議所連合会　北海道中小企業同友会
北海道特殊学校長会　北海道社会福祉協議会　札幌市　北海道

第 35 回大会の開催に寄せて

大会長　上野　武治

職業リハビリテーション学会の学術大会を，初めてこの北海道の地で開催することになり，実行委員一同，心から嬉しく思っております。

今大会は，障がい者の雇用・就労をめぐる大きな転換点の中で開催されます。

第 1 に，さまざまな障がい者雇用施策が推進される中で，障害者自立支援法によって障がいの重い方々には「働くこと」に生計を圧する過大な利用料が課せられるようになったことです。法施行から 1 年を経過し，障がい者の雇用・就労には重大な格差と亀裂が生み出されつつある今こそ，ILOの国際基準に立ち返ることが求められています。

次に，2006 年 12 月，国連総会で障害者権利条約が採択されたことです。本条約の第 27 条「労働及び雇用」では「労働を通じて生計を立てる機会についての権利」が明記されています。今後，条約批准に向けての国内法の見直しにおいて「雇用・就労における格差の解消」が焦点となることは確実です。

さらに，「障がい者がもっと働ける社会」が強調される一方で，それを支援する方々の雇用や生活，健康が悪化していることです。これは広くは「労働の多様化」の名の下で深刻化する働く人々の雇用や健康をめぐる問題と同一線上にあるものですが，障がい者の雇用・就労を推し進める上で見過ごすことができない事態といわねばなりません。

今大会は，このような相反する国内・国際動向を背景に開催されます。6年前の 2002 年，この札幌の地で開催された第6回障害者インターナショナル（DPI）世界会議には世界各国から多くの障がいを持つ方々が「権利回復」を求めて集いました。したがって，本大会には，こうした国際的な流れを引き継ぎつつ，「障がい者雇用・就労の明日を拓く」転機となることが内外から強く期待されているのです。

この様な意義のある今大会に，会員・非会員を問わず，道内外から多くの方々が参加下さるよう，お待ち申しております。

北海道大学構内中央ローン（北海道大学ホームページより）

大 会 日 程 表

7 月 26 日(木) [1 日目]　会場:クラーク会館, エンレイソウ

	12:00	13:00	13:05	16:50	17:00	18:00	18:15	20:00
クラーク会館・講堂		受付	開会	基調シンポジウム		総会		
エンレイソウ・レストラン							懇親会	

*研修基礎講座(学会研修委員会主催)

		9:30	10:30	12:00
学術交流会館	A 会場 (講堂)	受付	講座 A	
	B 会場 (第 1 会議室)		講座 B	

7 月 27 日(金) [2 日目]　　会場:学術交流会館

	8:30	8:50	10:20	10:30	12:00		13:00	15:00	15:15	17:15
		研究発表					課題別シンポジウム・ワークショップ			
A 会場 (講堂)	受付	精神障害(1)		精神障害(2) 発達障害		昼休み	ワークショップ 1		課題別 シンポジウム 4	
B 会場 (第 1 会議室)		知的障害等		高次脳機能障害(2)			課題別 シンポジウム 1		ワークショップ 2	
C会場 (小講堂)		身体障害 高次脳機能障害(1)		施策・制度等			課題別 シンポジウム 2		課題別 シンポジウム 3	
D 会場 (ホワイエ)			ポスター展示	ポスター発表			ポスター展示			

9:30　10:40　12:00　15:00

《大会企画プログラム》

Ⅰ．シンポジウム（大会実行委員会企画）					
基調シンポジウム	障がい者雇用・就労の原則を考える	26日（木）	13:05～16:50	クラーク会館・講堂	
課題別シンポジウム　1	発達障害者への雇用・就労支援	27 日（金）	13:00～15:00	学術交流会館	B 会場
同　2	うつ病の職場復帰支援～事業所内メンタルヘルス体制をどう築きあげるか～		13:00～15:00		C 会場
同　3	高次脳機能障害者の就労支援 ～救急車から職場まで～		15:15～17:15		C 会場
同　4	精神障害者への多様な雇用・就労支援 ～北海道における取り組みを中心に～		15:15～17:15		A 会場

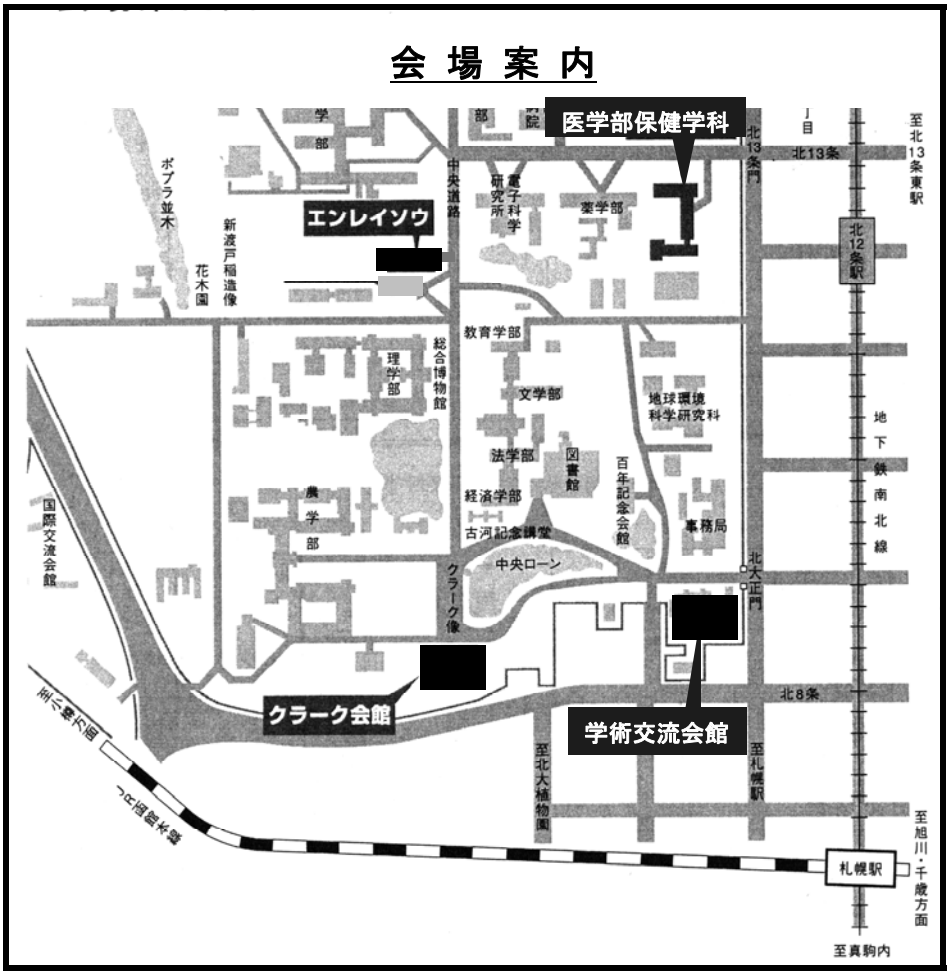
Ⅱ．ワークショップ（学会理事会企画）					
ワークショップ1	移行支援の「理」と「技」を語る	27 日（金）	13:00～15:00	学術交流会館	A 会場
同　2	職業リハビリテーションにおける人材育成を考える		15:15～17:15		B 会場

《研修基礎講座のご案内》

学会研修委員会主催で第 1 日目に以下の研修講座が開催されます。本講座はどなたでも受講できますので，ふるってご参加ください。受講希望の方は，受講希望講座（AかB）を選択して挟み込みの参加申込書にご記入の上，お申し込みください（受講料 1,500 円）。

研修基礎講座 （学会研修委員会主催） 7 月 26 日（木） 会場：学術交流会館　　受付：9：30～10：30			
研修基礎講座A	就労移行支援事業の設計図作りと動かし方	10:30～12:00	A会場
	講師：小川　浩　　運営理事，大妻女子大学人間関係学部教授		
研修基礎講座B	発達障害の基礎理論と就労支援の実際	10:30～12:00	B会場
	講師：柴田　珠里　　特任理事，よこはま・自閉症支援室（横浜市発達障害者支援センター）就労支援担当		

会 場 案 内



会場への交通

（おおよその所要時間）

＜大学構内へのアクセス＞

JR 札幌駅北口

徒歩 10 分

地下鉄南北線

さっぽろ駅　徒歩 10 分

北12条駅　徒歩 10 分

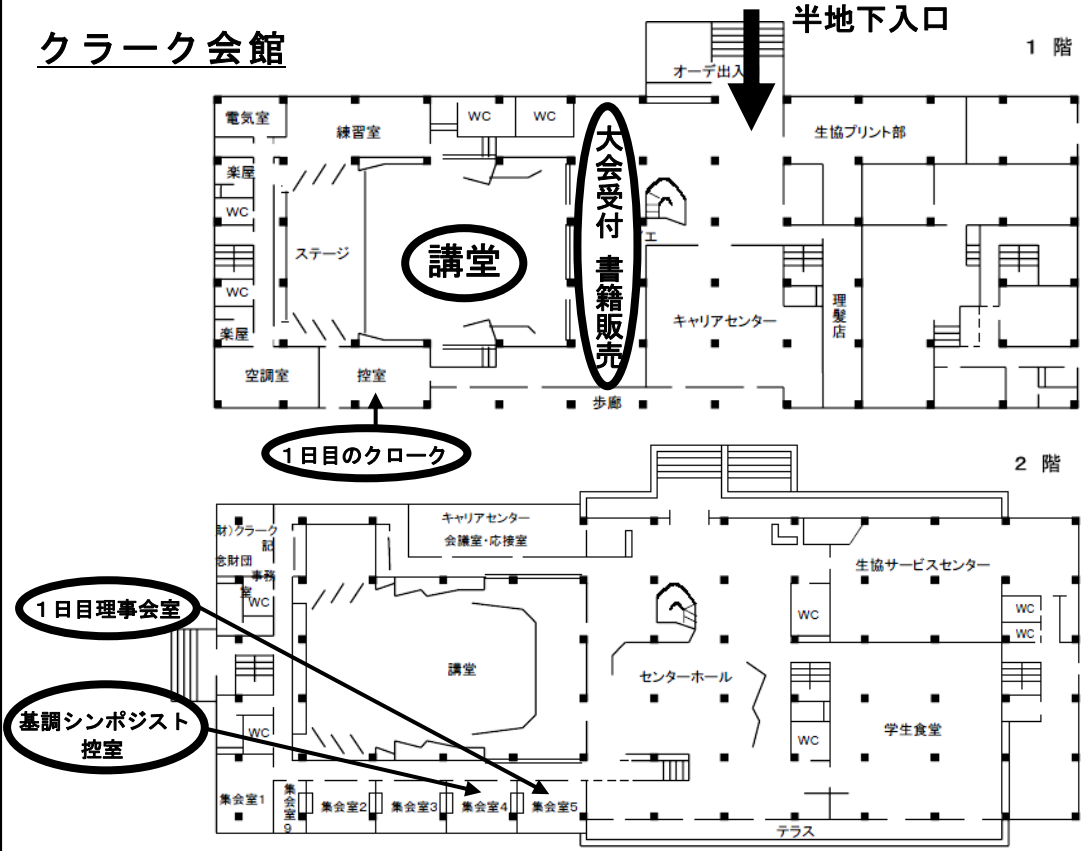
＜新千歳空港のアクセス＞

JR 快速エアポート 40 分

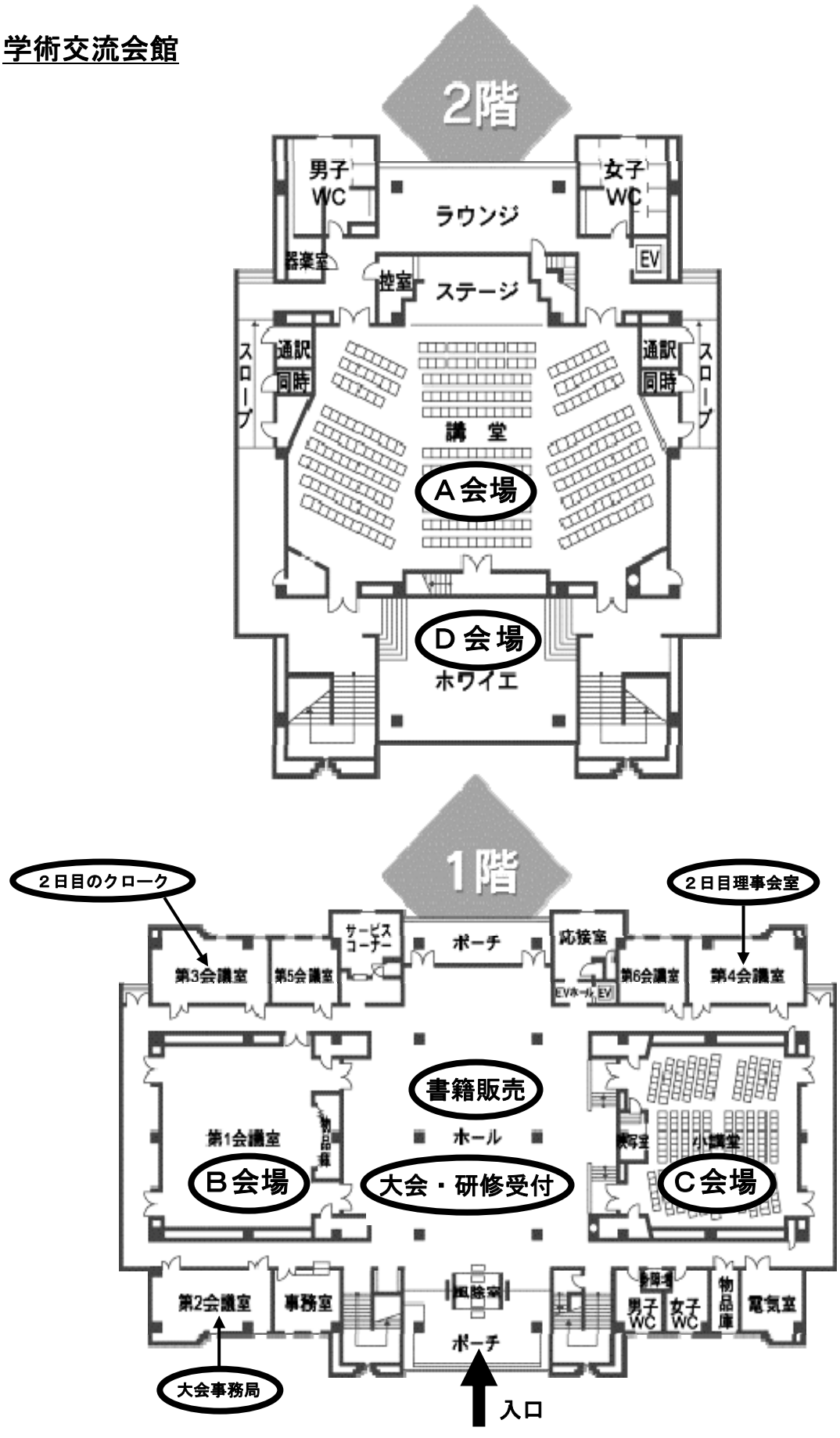
バス（中央・北都交通）

1 時間 10 分

クラーク会館



学術交流会館


2階
男子WC
女子WC
ラウンジ
器楽室
控室
ステージ
EV
通訳同時
スロープ
講　堂
A会場
D会場
ホワイエ
1階
2日目のクローク
2日目理事会室
サービスコーナー
ポーチ
応接室
第3会議室
第5会議室
第6会議室
第4会議室
EVホール
EV
書籍販売
ホール
第1会議室
物品庫
B会場
大会・研修受付
小講堂
C会場
第2会議室
事務室
男子WC
女子WC
物品庫
電気室
大会事務局
入口

《参加のご案内》

1. 参加申しみ方法

・本書に挟み込みの参加申込書に必要事項をご記入の上，ファクシミリまたは郵送にて
近畿日本ツーリスト(株)札幌事業部宛にお送り下さい。
・大会参加費，研修基礎講座をはじめ，諸費用はすべて近畿日本ツーリストにお振り込みください。
・事前登録の締め切りは，**6月29日(金)**です。
・当日受付も承りますが，できるだけ事前に申し込み手続きをお済ませください。
・納入された参加費と研修講座費はお返ししません。

2. 参加費

＜大会参加費＞	＜事前登録者＞	＜当日＞
会員（後援・協賛団体会員を含む）	￥4,000（予稿集含む）	￥5,000（予稿集含む）
非会員	￥5,000（予稿集含む）	￥6,000（予稿集含む）
学生	￥1,000（予稿集なし）	￥1,000（予稿集なし）
		予稿集￥1,000

3. 研修基礎講座

学会研修委員会の主催で行われるもので，大会への参加とは無関係に，どなたでも参加できます。
受講料は 1,500 円です。講座A，講座Bのいずれか選択し，その旨，参加申込書に記入ください。

4. 懇親会

・7月 26 日(木)18：00 から学内のレストラン・エンレイソウで開催します(会費：4,000 円)。
参加を希望する方はその旨，参加申込書に記入ください。
・10 日前までの取消は全額返金します。

5. 昼　食

・両日ともお弁当(お茶つき)を用意します(1食 1,000 円)。希望の方はその旨，参加申込書に記入ください。
・10 日前までの取消は全額返金します。

6. 参加登録・研修基礎講座・懇親会・宿泊・航空券・お弁当の申し込み・お問合せ先

近畿日本ツーリスト(株)札幌事業部イベント・コンベンション
〒060-0003 札幌市北区北3条西1丁目パナソニックビル4階
「日本職業リハビリテーション学会第 35 回大会」担当デスク
Tel: 011-280-8855　Fax: 011-280-2732
電子メール:hkd-ec@or.knt.co.jp

《研究発表者の皆様へ》

1. 研究の発表時間

・**口演発表**：発表7分，討論（質疑応答）8分，計 15 分

・**ポスター発表**：発表5分，討論（質疑応答）5分，計 10 分
演者は該当セッション開始 10 分前までに会場に入室して待機してください。

2. 発表の準備

・**口演発表**：プロジェクタをご使用の方は Power Point2003 (Windows 用)で作成したプレゼンテーションファイルを事務局に**7月23日（月）必着**で必ず提出してください（他のファイル形式は不可）。提出はメールに添付，または CD に入れて郵送のどちらかの方法に限ります。ファイル名は筆頭演者氏名とプログラム中の演題番号としてください（例：北海太郎 A1-7）。なお，個人のパソコンは会場に持ち込みできません。OHP をご使用の方は，当日，発表用の用紙をご持参ください。

・**ポスター発表**：ポスターパネルの大きさは，一演題当たり横 90cm，縦 180cm です。タイトル・演者氏名・所属も各自ご用意ください。展示の時間は，7 月 27 日（金）9：30～15：00 です。受付終了後， 8：30～9：30 の時間帯に展示会場にて展示作業を行い，15：00 以降に各自撤去してください。大会終了後も撤去されていない場合は事務局にて処分しますので，あらかじめご了承ください。

3. お問合せ・プレゼンテーションファイル送付先

電子メール：jsvr2007@med.hokudai.ac.jp
日本職業リハビリテーション学会第 35 回大会事務局（JSVR2007 事務局）
〒060-0812 札幌市北区北12条西5丁目
北海道大学医学部保健学科 作業療法学専攻 八田研究室 Tel /Fax: 011-706-3335

《座長，シンポジウム・ワークショップの発表者・司会の皆様へ》

1. 受付と待機

受付を済ませ，各担当分科会・セッション，シンポジウム，ワークショップの開始 10 分前までには会場内でお待ちください。

2. 控え室

打ち合わせの場所を，第 1 日目はクラーク会館2階，第2日目は学術交流会館内に用意していますので，ご利用ください。

《その他のお知らせ》

・クロークを用意しています。1日目はクラーク会館1階（12：00～18：00），2 日目は学術交流会館 1 階（8：30～17：30）です。
・書籍販売は，大会期間を通じて行われます。使用可能なカードは VISA，MASTER，NICOS，DC です。
・会場にて移動介助，手話通訳，障害による配慮が必要な方は事前に事務局にご相談下さい。
・本大会は，日本作業療法士協会の生涯教育制度の研修として認められています。

大会プログラム案内

大会第1日:7月26日(木)　　会場:クラーク会館(講堂)

■ 開会(13:00～13:05)　　**挨拶　大会長:上野　武治**

■ 基調シンポジウム(13:05～16:50)

テーマ「障がい者雇用・就労の原則を考える」

今日,さまざまな障がい者雇用施策が展開されているものの,2006 年 4 月に施行された障害者自立支援法は障がい者雇用・就労に重大な問題を生み出している。従来の福祉的就労には重い利用料を課せられる一方で,就労の活動を抑制・中断せざるを得ない方々が生み出され,居住地での軽減措置も加えると,三重・四重の格差が生まれつつある。

こうした状況をふまえ,本シンポジウムでは,あらためて障害者雇用・就労に関わるILOや国連などの国際基準を確認しつつ,それに関わる労働法的側面,今日の雇用や労働者の健康状況などについて,各領域の専門家や当事者団体の参加も得て,広い視野から議論し,職業リハビリテーションの明日を切り拓く機会としたい。

司 会　　松 井　亮 輔 (法 政 大 学)
上野　武治(北星学園大学)

シンポジスト

①障がい者の雇用・就労と国連・障害者権利条約
西村　正樹氏 (DPI 日本会議副議長, DPI 北海道ブロック議長)

②障がい者の雇用・就労とILOの国際基準
丸山　一郎氏 (埼玉県立大学保健医療福祉学部教授)

③障がい者の雇用・就労をめぐる労働法的側面
道幸　哲也氏 (北海道大学大学院法学研究科教授)

④今日の雇用状況と労働者の健康問題
福地　保馬氏 (働く者の命と健康を守る全国センター理事長,
藤女子大学大学院教授, 北海道大学名誉教授)

■ 総会(17:00～18:00)

■ 懇親会(18:15～20:00)　　**エンレイソウ・レストラン**

大会第2日:7月27日(金)　　会場:学術交流会館　A会場

午前の部

■ 研究発表 (8:50～12:00)

A1 精神障害(1)(8:50～10:20)

座長　倉知延章(九州ルーテル学院大学)
吉澤浩一(地域生活支援センター手稲)

A1-1 PSW の行う就労支援に関する研究～若手 PSW へのグループインタビュー法を用いた検証～
○徳永達哉, 尾形多佳士*, 石川央弥**, 富岡奈巳***, 吉澤浩一****
(臨床実践研修会:桑園病院, *平松記念病院, **宮の森記念病院, ***ウェルネス望洋台医院, ****地域生活支援センター手稲)

A1-2 ピアグループによる就労支援「働く人のミーティング CAT」
○大島みどり(IPS-J／クラブハウス For Us)

A1-3 はじめての就労支援～IPS による支援を実施して～
○星ゆかり, 久米知代*, 梅原芳江*, 近藤昭子**, 大島巌*(厚生労働科学研究 IPS－J プロジェクト, *日本社会事業大学社会福祉学部, **市川市南八幡メンタルサポートセンター)

A1-4 リカバリーのプロセスにおける「働くことの効果」～IPS を活用した A 子の体験からの一考察～
○香田眞希子, 大島みどり*, 瀬戸屋雄太郎, 園　環樹, 久永文恵, 伊藤順一郎
(国立精神・神経センター精神保健研究所社会復帰相談部, *IPS-J／クラブハウス For Us)

A1-5 就労支援ユニット(IPS-J)の実績と地域への波及に向けた取り組み
○小川ひかる, 星ゆかり*, 石井雅也, 大島みどり**, 久永文恵***, 香田眞希子***
(国立精神・神経センターACT-J 臨床プロジェクト, *厚生労働科学研究 IPS － J プロジェクト, **IPS-J／クラブハウス For Us, ***国立精神・神経センター精神保健研究所社会復帰相談部)

A1-6 障害者就労を想定した企業開拓～「開拓」から「コンサルティング」へ～
○石井雅也(国立精神・神経センターACT-J 臨床プロジェクト)

A2 精神障害(2)・発達障害(10:30～12:00)

座長　相澤欽一(高齢・障害者雇用支援機構　山形障害者職業センター)
藤谷真弓(札幌デイ・ケアセンター)

A2-1 家族療法と職業リハビリテーションの家族支援との共通点と相違点について
○仲村信一郎(高齢・障害者雇用支援機構　障害者職業総合センター)

A2-2 精神障害者を対象とした労働体験機会の情報交換ネットワーク
○関本正子, 三木佐和子(オレンジ・ネットワーク)

A2-3　希望を重視した就労支援～キャリア発達の視点から

○本多俊紀（札幌市こぶし館）

A2-4　復職に対する不安感と焦燥感の軽減に精神科デイケアが有効だった事例

○中村直子，渡辺明日香*，菅原奈緒，小林理子

（林下病院，*北海道大学医学部保健学科作業療法学専攻）

A2-5　発達障害者に対する自己理解の促進のための取り組み

○岩永可奈子（高齢・障害者雇用支援機構　山口障害者職業センター）

A2-6　発達障害のある人の就労に関わる精神科的課題

○千田若菜，横田圭司，水野　薫*，岡田智**

（ながやまメンタルクリニック，*福島大学大学院，**共立女子大学）

午後の部

■　ワークショップ１（13:00～15:00）

テーマ『移行支援の「理」と「技」を語る』

本ワークショップでは，障害者自立支援法の「就労移行支援」を尊重しつつ，雇用・就業への移行支援の全体を取り上げ，それをよりスムーズに，かつ効果的に進めていくための基本的な考え方（理念）と具体的な戦略や方法（技）を深める場とする。このため，教育，医療，福祉，労働の各現場の「考え方」と「技」を出し合い，徹底的に討論し，今日からでも使えるレッスンを分かち合うことを狙いとしたい。さらに，参加者同士のフリーディスカッションの時間を大幅に割いて，これまでにない進め方を試したい。

あくまで，研修ではなく学会における討論の場として展開するため，参加者は自らの雇用・就業への移行支援の考え方や方法論を整理して臨まれたい。

司会　　野中　佳彦（運営理事，高齢・障害者雇用支援機構　障害者職業総合センター）

眞保　智子（高崎健康福祉大学短期大学部）

①教育現場から

原　智彦氏（東京都立あきる野学園養護学校教諭）

②　医療現場から

向谷地　生良氏（北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科教授）

③　福祉現場から

高橋　一裕氏（社会福祉法人美唄共練寮施設長）

④　労働現場から

市川　美也子氏（高齢・障害者雇用支援機構　岩手障害者職業センター主任カウンセラー）

■ 課題別シンポジウム 4（15:15～17:15）

テーマ『精神障害者への多様な雇用・就労支援～北海道における取り組みを中心に～』

就労を希望する精神障害者が増加しているが，そのためにはそれぞれの地域特性に応じた就労・雇用の支援とネットワークの構築，就労後の継続的な支援などが重要な課題となる。この北海道は依然厳しい雇用状況にあるものの，大都市の札幌をはじめ，各地で精神障害者の就労にむけて様々な特色ある活動が展開されている。

本シンポジウムではこうした地域特性を生かした取り組みを紹介しつつ，地域に根ざした支援の進めかたについて検討したい。また，雇用促進法の改正や障害者自立支援法の施行が精神障害者の雇用・就労にどのような影響をもたらしているかも併せて検証したい。

司会　辻　伸幸（高齢・障害者雇用支援機構　北海道障害者職業センター）
原田　徳（就労・生活サポートセンター手稲）

①デイケアを基盤にした多様な就労支援

相内　雄介氏（デイケアクリニック・ほっとステーション［札幌］精神保健福祉士）

②精神障害者授産施設における IPS 導入の試み

本多　俊紀氏　（NPO 法人コミュネット楽創理事，札幌市こぶし館事務長）

③地域生活支援センターから就労移行・継続支援事業への転換

元井　昭紀氏　（就労・生活サポートセンター手稲〔札幌〕生活支援員）

④当事者主体の多様な働く場の構築

伊藤　知之氏　（浦河べてるの家精神保健福祉士）

⑤十勝地域における就労ネットワークの構築

片平　修氏　（精神障害者授産施設・帯広ケアセンター　作業療法士）

大会第2日:7月27日(金)　　会場:学術交流会館　B 会場

午前の部

■ 研究発表 (8:50～12:00)

B1 知的障害等(8:50～10:20)

座長　大曽根 寛(放送大学)
大垣勲男(知的障害者通所授産施設ふみだす)

B1-1 働く知的障害者の体力と活動量，2年の経過～障害予防の観点から～
○菊池恵美子，山田拓実，松矢勝宏*，峰野和仁**，原 智彦***，鈴木良子****
(首都大学東京， *目白大学，**社会福祉法人福泉会，***都立あきる野学園養護学校，
****東京都心身障害者福祉センター)

B1-2 地域・行政との協働による就労移行支援事業所の設立・運営
○齋藤義明(NPO 法人わき・あい・あい)

B1-3 知的障害者の就労支援における連携の状況～名古屋市障害者雇用支援センターの実践から～
○角谷勝己(名古屋市障害者雇用支援センター)

B1-4 社会参加を支援する関係者間遠隔連携システムに関する研究
○太田容次，中島秀夫*，西谷 淳**(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所，
*甲賀地域ネット相談サポートセンター，**甲賀市教育委員会事務局教育研究所)

B1-5 ジョブコーチ場面におけるナチュラルサポートの形成プロセス
○若林 功(高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター)

B1-6 障害者に対する事業主の態度に関する研究動向
○小澤昭彦，菊池恵美子*
(首都大学東京大学院人間健康科学研究科，*首都大学東京健康福祉学部)

B2 高次脳機能障害(2)(10:30～12:00)

座長　加藤 朗(名古屋市総合リハビリテーションセンター)
真壁 治雄(NPO 法人もったいネットリサイクルプラザ)

B2-1 環境変化が高次脳機能障害者に与える効果 ～積極的なニーズが見えなかった事例～
○古谷香奈，吉川雅博*，稲葉健太郎**(NPO 法人脳外傷友の会みかんやま作業所，
*愛知県立大学文学部，**名古屋市総合リハビリテーションセンター職能開発課)

B2-2 委託訓練後の就職紹介と就労フォロー
○梶 直美(株式会社アドバンテッジリスクマネジメント)

B2-3　障害者の職場体験先としての大学研究室の可能性

○吉川雅博，古谷香奈*，稲葉健太郎**

（愛知県立大学文学部，＊NPO 法人脳外傷友の会みかんやま作業所，

**名古屋市総合リハビリテーションセンター職能開発課）

B2-4　地域障害者職業センターにおける高次脳機能障害者の就労支援の実態

○田谷勝夫（高齢・障害者雇用支援機構　障害者職業総合センター）

B2-5　企業における障害者雇用の意識調査及び高次脳機能障害の認知度の調査

○松井和夫，稲葉健太郎，江川真由美，阿部順子*（名古屋市総合リハビリテーションセンター，

*岐阜医療科学大学）

午後の部

■ 課題別シンポジウム　1（13:00～15:00）

テーマ『発達障害者への雇用・就労支援』

高機能自閉症や学習障害，注意欠陥多動性障害などの発達障害者は，学校在籍者数の6．3%と見積もられている。こうした状況を背景に，発達障害者支援法の制定や 2007 年度からの特別支援教育の開始など，発達障害者への支援体制が整備されつつあるが，いずれ雇用・就労支援が大きな課題になるものと考えられる。発達障害者には認知や行動上の困難に加え，複雑な二次的障害による困難もあり，雇用・就労を支援する際には，障害特性に対する適切な配慮が求められる。

本シンポジウムでは，各領域における対応策について考えると同時に，就労に至る過程の当事者に自らの体験や提案を語っていただく機会を企画した。

司会　八田　達夫（北海道大学医学部保健学科作業療法学専攻）

佐藤　明人（北海道札幌高等養護学校）

①青年期をむかえた発達障害者の特性理解　～就労支援のために～

向後　礼子氏　（高齢・障害者雇用支援機構　障害者職業総合センター研究員）

②学校における発達障害児の職業教育と雇用・就労支援の課題

三浦　高行氏　（石狩市教育委員会学校教育課特別支援教育主査）

③発達障害者の雇用・就労に必要な支援とは

大澤　隆則氏　（就労移行支援事業所　あるば所長）

④雇用・就労を含めた発達障害者支援施策の方向性

阿部　康子氏　（北海道保健福祉部福祉局障害者保健福祉課自立支援グループ主査）

⑤雇用・就労の体験と提案

当事者

■ ワークショップ 2（15:15～17:15）

テーマ『職業リハビリテーションにおける人材育成を考える』

近年，障害のある人たちに対する雇用・就業支援に関る施策が大きく変わり，働くことを通じた自立や社会参加を図るための適切な支援がこれまで以上に求められている。本ワークショップでは，職業リハビリテーションの概念と職業リハビリテーションに必要な知識と技術体系を踏まえたうえで，より良い人材育成のあり方や支援の枠組みについて考えたい。

司会　松為　信雄（学会長，神奈川県立保健福祉大学 ）
相澤　欽一（運営理事，高齢・障害者雇用支援機構　山形障害者職業センター）

①米国の認定リハビリテーションカウンセラー
八重田　淳氏（運営理事　筑波大学大学院リハビリテーションコース准教授）

② 我が国における職業リハビリテーション機関の人材育成
松為　信雄氏（学会長，神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授）

③ 福祉分野における就労支援の人材育成
小川　浩氏（運営理事，大妻女子大学人間関係学部教授）

④ 労働行政における障害者雇用支援の人材育成
相澤　保氏（東京都足立公共職業安定所所長）

大会第2日:7月27日(金)　　会場:学術交流会館　C会場

午前の部

■ 研究発表 (8:50～12:00)

C1 身体障害・高次脳機能障害(1)(8:50～10:20)

座長　泉 忠彦(兵庫県総合リハビリテーションセンター)
真木 誠(北海道大学医学部保健学科作業療法学専攻)

C1-1 肢体障害者のキャリア形成に関する考察
○星加 節夫(高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター)

C1-2 「八雲養護学校における重い障害のある子どもたちの就労移行支援」
～誰もが参加できる仕事の形を探しています～
○元木祐子, 田中栄一*(北海道八雲養護学校, *国立病院機構八雲病院)

C1-3 在宅就業支援に関する取り組みと課題について
○岡本忠雄, 池田泰将, 栗田大輔(大阪市職業リハビリテーションセンター)

C1-4 大阪市職業リハビリテーションセンター情報処理科における職業訓練・就業支援について
○栗田大輔, 岡本忠雄(大阪市職業リハビリテーションセンター)

C1-5 脳卒中患者の再就労に関する一考察～当院における独自の就労支援活動を通して～
○廣瀬陽子, 飯沼 舞(北原脳神経外科病院)

C1-6 重度記憶障害を呈する症例の復職に向けた支援
～ボランティアサークルあしたばでの活動を通して～
○飯沼 舞, 廣瀬陽子(北原脳神経外科病院)

C2 施策・制度等(10:30～12:00)

座長　八重田 淳(筑波大学大学院リハビリテーションコース)
杉田 誠(相談室ベガ)

C2-1 職業的重度障害者の雇用促進のための短時間就業に関する考察
～平成15年障害者効用実態調査と平成17年求職者調査から～
○石黒 豊(高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター)

C2-2 障害者の多様な就業形態の実態～アンケート調査から～
○野中由彦(高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター)

C2-3 難病就業支援モデル事業の取り組みについて
○三島広和, 春名由一郎, 伊藤美千代(高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター)

C2-4　就労支援に関する当事者・支援者のグループインタビューの比較

○大川浩子，本多俊紀*，脇島久登**，梅津友斗***，山本幹子****（北海道文教大学人間科学部作業療法学科，*札幌市こぶし館，**NPO 法人陽だまり，***千歳桂病院，****札幌グリーン病院）

C2-5　ドイツにおける障害者差別禁止法の展開と割当雇用制度

○指田忠司，平川政利（高齢・障害者雇用支援機構　障害者職業総合センター）

C2-6　障害者就労と企業の社会的責任

○荒川祥子（東北大学大学院経済学研究科）

午後の部

■ 課題別シンポジウム 2（13:00～15:00）

テーマ『うつ病の職場復帰支援～事業所内メンタルヘルス体制をどう築きあげるか～』

「うつ病を中心とする長期休職者の復職リハビリテーション」を「劣化した労働力の補修」という視点から捉え直したとき，劣化を促進させる現代の職場の中に，どのようにして障害労働者を含む労働者保護の考え方を浸透させていくのかが復職支援に止まらず，精神障害者の雇用を進める上でのキーとなる。2006 年の新「メンタルヘルス指針」では事業所内のケアが強調されているが，これらケアの推進が広い意味で職場に精神障害者の受入の素地や機構を形成し，雇用を推し進める原動力になるのではないだろうか。

本シンポジウムでは，各シンポジストから復職支援の実践の報告をいただきながら，特に事業所内メンタルヘルス体制の整備という視点から議論を展開したい。

司会　　鈴木　瑞哉（高齢・障害者雇用支援機構　北海道障害者職業センター）
武田　洋一（札幌市精神保健福祉センター）

①医療機関における復職支援リハビリテーションの試み

北川　信樹氏　（北海道大学病院精神科神経科医師）

②地域障害者職業センターにおけるリワーク支援の取り組み

八木　繁美氏　（高齢・障害者雇用支援機構　岐阜障害者職業センターカウンセラー）

③川崎市における復職支援システム

由利　珠美氏（川崎市職員リワーク研修センター保健師）

④北海道電力（株）における長期休務者の職場復帰へ向けた取り組み

東浦　孝幸氏　（北海道電力（株）人事労務部安全保健グループ）

⑤当事者としての体験

復職当事者

■ 課題別シンポジウム 3（15:15～17:15）

テーマ『高次脳機能障害者の就労支援～救急車から職場まで～』

高次脳機能障害の就労支援は，救急医療から慢性期医療，各種リハビリ，生活訓練，職業適性評価，障害認識のための心理的サポートと，非常に多くの段階を必要とする。こうした支援は，各分野の専門家による，長期的かつ一貫した関わりが必要であり，医療・福祉・職リハといった分野ごとの縦割りでは対応しきれないものである。

本シンポジウムでは，これら各分野の専門家の立場に，それぞれの経験を語ってもらいながら，就労を支援する上での課題を明らかにしていきたい。同時に，障害者自立支援法が高次脳機能障害者の就労に及ぼす影響についても検討する。

司会　原田　圭（NPO 法人コロポックルさっぽろ）
中村　和彦（北星学園大学社会福祉学部）

①障害認識と職業生活の質
阿部　順子氏　（岐阜医療科学大学保健科学部看護学科教授）

②生活支援を通しての就労支援の経験
大野　由美子氏　（あずまし家丸商なはは地域活動センター）

③就労生活と福祉制度（手帳，年金など）との関連
西村　文洋氏　（白老町立特別養護老人ホーム寿幸園施設長）

④ジョブコーチとしての高次脳機能障害者支援の経験
高谷　さふみ氏　（釧路・根室障害者就業・生活支援センター就労支援員）

⑤高次脳機能障害者の就労と障害者自立支援法
東川　悦子氏　（日本脳外傷友の会代表，日本障害者協議会副会長）

大会第2日:7月27日(金)　　会場:学術交流会館　D 会場

■ ポスター展示(9:30～15:00)

■ ポスター発表(10:40～12:00)

座長　古川直樹(兵庫県総合リハビリテーションセンター)
松本健一(札幌障害者就業・生活支援センター)

D-1　作業仲介を利用した就労前訓練
○根本真理子, 飯田純也(NPO 法人障害者支援情報センター)

D-2　進路指導教諭の移行コーディネーター的役割
～全国の知的障害養護学校に対する実態調査から～
○知名青子(東北大学大学院教育学研究科)

D-3　知的障害者の就労継続のための支援に関する一考察
○大谷博俊(鳴門教育大学)

D-4　東京都における知的障害特別支援学校卒業生の進路状況と職域について
○市村たづ子(東京都立南大沢学園養護学校)

D-5　地域, 企業, 学校の連携による社会福祉援助活動～知的障害養護学校卒業生による農業福祉～
○田中誠(就実大学・就実短期大学)

D-6　老年期を健やかに過ごすためのかつての仕事の使い方
○村田和香(北海道大学医学部保健学科作業療法学専攻)

D-7　チーム医療での多職種の連携～ACT-J での就労支援担当者とケースマネジャーの連携事例～
○小川ひかる, 田中幸子, 足立千啓(国立精神・神経センターACT-J プロジェクト臨床チーム)

D-8　連携に影響を及ぼす要因に関する研究
～知的障害者の職業リハビリテーション機関従事者を中心に～
○李美貞, 八重田淳, 奥野英子(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

大会実行委員　(50 音順, ＊は運営委員)

及川　修司＊　(北海道網走養護学校)
大井　暢之　(北海道精神障害者回復者クラブ連合会)
大垣　勲男　＊　(社会福祉法人知的障害者通所授産施設ふみだす)
大澤　隆則　＊　(就労移行支援事業所　あるば)
大野　由美子＊　(NPO 法人あずまし家丸商なはは地域活動センター)
小山内美智子　(社会福祉法人アンビシャス)
片平　修　(社会福祉法人帯広ケア・センター)
片山　和恵　(きょうされん北海道支部, NPO 法人精神障害者を支援する会)
金子　宣裕　(小樽後志地域障害者就業・生活支援センターひろば)
北村　典幸　(社会福祉法人あかしあ労働福祉センター)
高坂　一人　(社会福祉法人ワークトピア・アスカ)
笹木　あゆみ　＊　(札幌デイ・ケアセンター)
佐々木　渉　＊　(デイケアクリニックほっとステーション)
佐藤　明人　(北海道札幌高等養護学校)
菅原　貴　(社会福祉法人稚内木馬館)
杉田　誠　＊　(相談室ベガ)
杉橋　桃子＊　(北海道立精神保健福祉センター)
鈴木　瑞哉＊　(独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構　北海道障害者職業センター)
武田　洋一＊　(札幌市精神保健福祉センター)
龍澤　強志　(社会福祉法人精神障害者通所授産施設いずみの里)
玉手友里香　(社会福祉法人身体障害者福祉工場札幌福祉印刷)
辻　伸幸＊　(独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構　北海道障害者職業センター)
中村　和彦＊　(北星学園大学社会福祉学部)
林　健一＊　(さっぽろひかり福祉会あさかげ生活支援センター)
林　眞司　(社会福祉法人身体障害者福祉工場札幌福祉印刷)
原田　圭＊　(NPO 法人コロポックルさっぽろ)
原田　徳＊　(医療法人就労・生活サポートセンター手稲)
藤谷　真弓＊　(札幌デイ・ケアセンター)
真壁　治雄＊　(NPO 法人もったいネットリサイクルプラザ)
松本　健一　(札幌障害者就業・生活支援センター)
向谷地生良　(北海道医療大学大学院看護福祉研究科)
横山　豊　(釧路・根室障害者就業・生活支援センターぷれん)
吉澤　浩一＊　(医療法人地域生活支援センター手稲)
吉本　政秀　(社会福祉法人ケアセンター・アルドール)

大会事務局　北海道大学医学部保健学科作業療法学専攻内

事務局長　八田　達夫
会計責任者　村田　和香
会場設営・運営責任者　真木　誠
プログラム・予稿集編集責任者　渡辺明日香

日本職業リハビリテーション学会
第 35 回大会事務局
Email: jsvr2007@med.hokudai.ac.jp
Tel/Fax: 011-706-3335(八田研究室)